

キャラクター名  プレイヤー名

メインクラス	メイジ	Lv.1:		レベル	2
サポートクラス	セージ	Lv.1:	レンジャー	性別	男
称号クラス				年齢	17
種族	エルダナーン			境遇	孤児院出身
出自(効果)	狩人			目標	修行

	筋力	器用	敏捷	知力	感知	精神	幸運
基本値	7	9	9	14	9	10	10
ボーナス	2	3	3	4	3	3	3
クラス修正	0	0	0	2	2	1	1
他修正							
能力値	2	3	3	6	5	4	4

HP	33
MP	41
フェイト	5

装備品		射程	命中	攻撃	回避	物防	魔防	行動	移動
右手									
左手									
頭部	メイジハット					2			
胸部	ローブ					2			
補助	マント					1			
装身具	グリモア								
能力値			3	0	3	0	4	8	7
スキル									
その他									
総計(右)			3	0					
総計(左)			3	0	3	5	4	8	7
総計(両)			3	0					m
ダイス数			2 d	2 d	2 d				

	能力値	スキル	その他	合計	ダイス数
トラップ探知	5			5	+ 2 d
トラップ解除	3			3	+ 2 d
危険感知	5			5	+ 2 d
エネミー識別	6			6	+ 2 d
アイテム鑑定	6			6	+ 2 d
魔術判定	6			6	+ 2 d
呪歌判定					+ d
錬金術判定					+ d

所持品	
冒険者セット	
バックパック	
MPポーション	
MPポーション	
毒消し	
ベルトポーチ	
MPポーション	
MPポーション	
MPポーション	
MPポーション	

現在重量: 12 | 最大重量: 14 | 所持金: 15 | 預金・借金:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
マジックセンス	★	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 作成時に知力基本値+3								
マジシャンズマイト	1	-	パッシヴ	-	自身	自動成功	-	
効果: 魔法攻撃のダメージに+[SLD]								
エアリアルセイバー	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 風魔法ダメージ+SL×4								
エアリアルスラッシュ	1	6	Xジャー	20m	単体	魔術	-	
効果: 魔術判定+1D ダメージ2D+5風								
クイックエイド	1	-	マイナー	-	自身	自動成功	1回	
効果: HP回復 CL×10回復+状態異常回復								
フェイドアウェイ	1	3	ムーブ	-	自身	自動成功	-	
効果: 敵の間合いから離脱後マイナー使用可能								
エフィシエント	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 魔術の効果に+(SL×2)								
コンセントレイション	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 魔術判定+1D								
トラッキング	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: 痕跡追跡感知判定に+1D								
モンスターロア	1	-	パッシヴ	-	自身	-	-	
効果: Iニ識別判定に+1D								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

基本的には皆の後ろをついていく本の虫。マイペース野郎。  
 食費を削っても本を買う。孤児院で仲良かったのはロベルト君（ロビン呼び）。  
 狩人だった両親を敗戦による脱走兵にzansatsuされるも逃げ延び、孤児院にお世話になっていた。  
 強くなれば生きていけると思っているの、知識欲と共に積極的に戦闘に参加する姿勢を見せる。

孤児院でのロビンとの出会い…食事時に本読んでたらいつの間にかパンが盗られてて。  
 気が付いたら、なんかケンカ始まった。それで、体格の差もあってロビン負けちゃって、それで…  
 横たわって動かなくなってるロビンの口元が動いてて、聞き取ろうと近寄ったらこう言ってたんだ。  
 「ちくしょう力が…力があれば！」ってね。それを見てたらなんか自分の両親が殺されたこと思い出しちゃってさ。  
 そうだ、力があれば…強ければ食べ物も奪われないし、生きていけるって…そう思ったんだ。  
 僕はロビンに感謝しているんだ。何を考えているのかわからないって言われる僕の為に戦ってくれた人なんて他にはいなかったから。  
 結果がどうあれ、立ち向かっててことを見せてくれたロビンのことを僕は尊敬しているよ。  
 それからは…そうだね。僕はどうも人とテンポが違うようだね。人の会話に入っていくのが苦手なんだ。そんな時、ロビンの袖を引くんだ。  
 そうすると察して、声を上げてくれる。悪ぶっているけど、僕には悪いやつではないってわかるんだ。